

トカラ小宝島における考古学的分布調査

渡辺芳郎

Archaeological Survey of Kodakarajima Island in the Tokara Islands

WATANABE Yoshiro

鹿児島大学法文学部

Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University

要旨

トカラ列島小宝島において考古学的分布調査を実施した。その結果、4地点で計6点の陶磁器片を採集し、また墓地において墓石前に供えられた陶磁器を確認した。それらの産地・年代を推定するとともに、トカラの他の島嶼における調査成果と比較し、小宝島における陶磁器流通の特徴について検討した。

はじめに

トカラ列島（鹿児島県鹿児島郡十島村）における近世に関する考古学的調査はきわめて少ない。そこで筆者は2011年の平島を皮切りに、2013年に中之島・諏訪之瀬島・悪石島・宝島、2014年に口之島において、近世を中心とした考古学的分布調査を実施してきた（渡辺・小西 2013, 渡辺 2015）。今回、小宝島の分布調査を実施したので、その成果を報告する。

方法

2015年8月10日～12日、鹿児島大学法文学部・大学院人文社会科学研究所の学生3名（松崎大嗣・吉本美咲・松山初音）を同行し、小宝島の集落を中心に、地表面に散布する遺物の採集を行った。集落を中心としたのは、現在の集落と近世のそれとでは立地的に大きな差異がないことが、他のトカラ列島の調査により推測されていたからである。

結果と考察

調査の結果、4地点で計6点の遺物が採集できた。また墓地において墓石前に供えられた陶磁器を確認した。採集した陶磁器の内訳は以下の通りである（図1）。肥前産染付磁器1点（碗口縁部片、コンニャク印判、17世紀末～18世紀前半）、薩摩焼苗代川産陶器1点（甕胴

部片、19世紀以後)、沖縄壺屋産無釉陶器1点(壺胴部片、近代か)、染付磁器1点(皿胴部片、化学コバルト、型紙刷、蛇の目釉剥ぎ、産地不明、近代)、瓦片1点(産地不明、近代か)、陶器製蓋1点(産地不明、近現代か)。また墓石前に供えられた陶磁器には、19世紀の中国清朝磁器の青花仙芝祝寿文碗が確認された(図2)。同種の青花碗は宝島でも採集されている(渡辺 2015: 36)。

小宝島における採集資料の内容は、他のトカラの島嶼におけるそれと違いはないが、その数は他に比べ少ない(例えば隣接する宝島では18地点75点採集[渡辺 2015: 36])。このことは、小宝島がトカラ列島の有人島においてもっとも面積が小さく、人口が少なかったこと(需要の少なさ)、また近世の小宝島が薩摩一奄美間の航路に直接つながらず、宝島を介しての物資流通が中心であったこと(流通量の少なさ)に由来する可能性が考えられる。



図1 小宝島採集資料



図2 中国清朝磁器碗

引用文献

- 渡辺芳郎・小西美佳 2013. トカラ列島 平島. 「水中文化遺産データベース作成と水中考古学の推進—水中文化遺産総合調査報告書・南西諸島編一」(宮城弘樹・渡辺芳郎・片桐千亜紀編), 13-15, アジア水中考古学研究所・南西諸島水中文化遺産研究会・鹿児島大学法文学部物質文化論研究室, 福岡
- 渡辺芳郎編 2015. 近世日本国家領域境界域における物資流通の比較考古学的研究. 平成24～26年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書. 144頁, 鹿児島大学法文学部, 鹿児島.